

技術・家庭科部会

研究主題

知識・技能の活用力を高める授業の構築 ～知識・技能の確実な定着を目指して～

1 主題について

今年度は、10月に能代山本地区を会場に行われた、東北技術・家庭科研究大会に向けて、秋田県技術・家庭科研究会で設定した研究テーマをうけて本テーマを設定し、研究を進めた。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月25日	第2回総合研究会 授業研究会（東中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日（火）
 - ・会 場 東中学校
 - ・題材名 マルチメディアを活用した表現
 - ・授業者 斉藤 誠良
- ～30秒CMをつくろう！～

① 授業者から

- ・本時の導入の内容は、前時の中間発表を生かして、「特殊効果」が本当に必要なのか考えてほしくて行った。しかし、教師側でねらっていたことを子どもたちはうまく捉えることができなかった。音響については、ただ好きな曲をBGMとして流すのではなく、さらに工夫する余地があることに気付いてほしかった。
- ・生徒は、デジカメから写真を取り込む、DVCから動画を取り込む、写真を貼り付ける、音楽を取り込むなど、1つの要素のことはできるが、これらのことを組み合わせる経験がほとんどなかった。本題材では、自分で決定したテーマに沿って、様々な技能を取り入れながら作品づくりを行うことを目指している。
- ・1時間目の授業では、生徒の「思い」や「願い」を高めさせ、2時間目に企画書を書かせた。計画を立てる際には、「誰に」「何を伝えたいのか」を重視させた。
- ・3時間後に完成発表会を行う予定である。事後の指導として、作品を発表することをおおして、みんなにどういうことを伝えたいのか考えさせることを大事にしていきたい。
- ・ムービーメーカーを活用した題材は、学習指導要領「C生物育成に関する技術」にも応用できると考える。また、情報モラルに関する事項を指導することもできる。

② 協 議

- ・今日の評価は、自分のテーマを表現するために工夫を加えることであるので、学習シートに記載した「改善した理由」がどう書かれているかが判断の材料となる。しかし、本時の観点は、4観点の2つめ「生活を創造し工夫する能力」に当たることから、AとBの境界線を明確にするのが難しい。
- ・前時の学習内容である、生徒たちが互いにアドバイスし合う場面を見たかった。視点を絞

- ってアドバイスし合っていたのはよかった。また、思考過程が分かる学習シートであった。
- ・4月5月の学習はどのようなことをしたのか。テーマによっては、修学旅行、大北総体などこれから先にある行事をテーマにしている生徒もいるので授業が進めづらいのでは。
→先輩の作品を見てイメージをわかせたり、TVのCMを見て研究したりする時間をもった。また、先にある行事については、この時期に箱の準備をしないといけない、という見通しをもたせるようにした。
 - ・生徒たちのテーマ設定がばらばらであったように感じた。個人で設定したテーマの、さらに上にあるテーマ（大テーマ）のようなものが必要なのではないか。→教師側でテーマを絞ると、生徒の思考を制限してしまうことになり、よい作品が生まれないと感じている。テーマを絞った方がよいという意見もあり、迷っている。
 - ・3年生の年間時数が17.5時間であるのに対して、本題材がまるまる17.5時間使う題材ということで、生徒たちの意欲は継続していくものか。
 - ・文章を打つ、写真を取り込む、CDから音楽を取り込む、などの一つ一つの技能を作品の中に集約することができる。この題材は目指す生徒像に迫る部分大きい。

(2) 指導助言（八代 英樹 指導主事）

- ・生徒が授業に集中して真剣に取り組んでおり、雰囲気が良い。教材については、生徒の意欲が出る工夫があった。総合的に技能を組み合わせる1つの作品に作り上げていくことのできる題材であり、地域や家庭と連携して取り組める題材であった。
- ・新学習指導要領に沿って、内容を精選していけるところは精選していきたい。
- ・音楽を入れている生徒の作品と入っていない生徒の作品とでは、印象がかなり違うことから、音楽を入れることは制作の条件にし、必ず入れさせる方がよいのではないか。
- ・企画書をどこまで修正すればめあてを達成したことになるのかを明確に示す必要がある。修正のポイントが6つあったが、達成の基準は修正したポイントの数で決めるのか、変更の大きさか、レベルの向上かなど、多様に考えられる。また、個人差もあるので、題材によっては、個々に具体的なめあてを設定させることも考えられる。
- ・技術・家庭科としての言語活動は、「思考力・判断力・表現力等」を高めるための手段である。「思考力・判断力・表現力等」は各教科によって異なる。読む力、話す力などのコミュニケーション能力は、技術・家庭科では中心となるねらいではなく、付随するものである。先輩の作品を見せ、「先輩はどういう思いをもってこの作品を作ったのか」という思いをなぞることも言語活動となる。制作図を作成する（描く）ことも言語活動となる。家庭分野では、思考を整理するために言語活動を行うことが考えられる。概念をはっきりさせ、図や表を作成することが考えられる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・「D情報に関する技術」の「(2)デジタル作品の設計」における題材の配置および授業展開の仕方

(2) 課題

- ・新学習指導要領に対応した年間18時間の題材構成の工夫



【ムービーメーカーに写真を取り込む生徒】